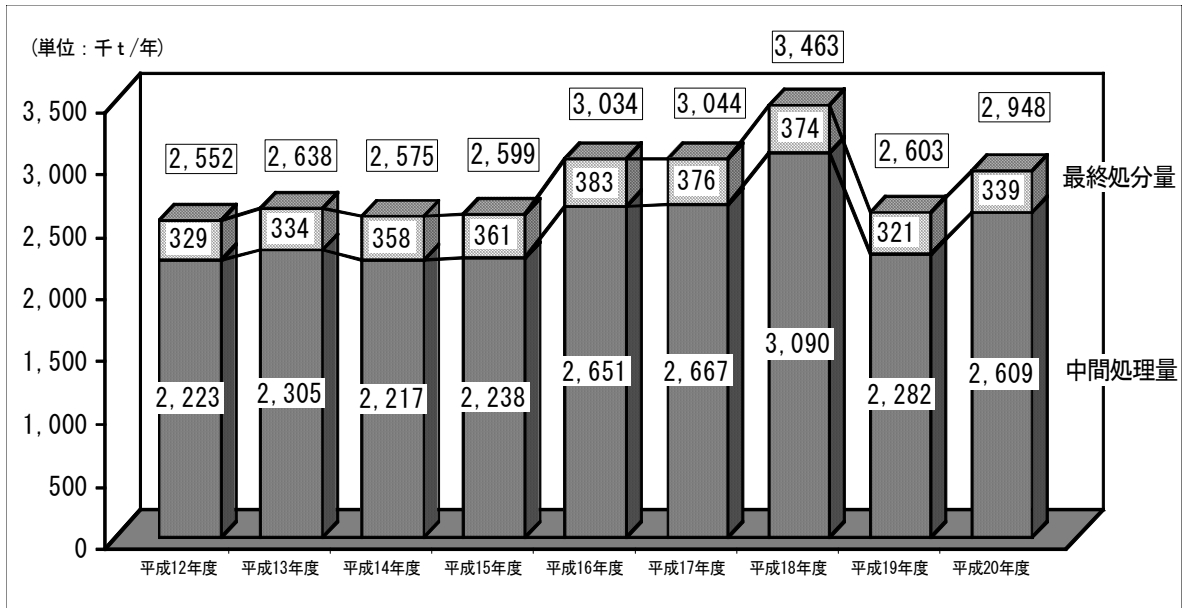


第3章 産業廃棄物の処分実績報告書（様式第28号）の集計結果

第1節 産業廃棄物処理業者の処分量

1. 処分量の推移

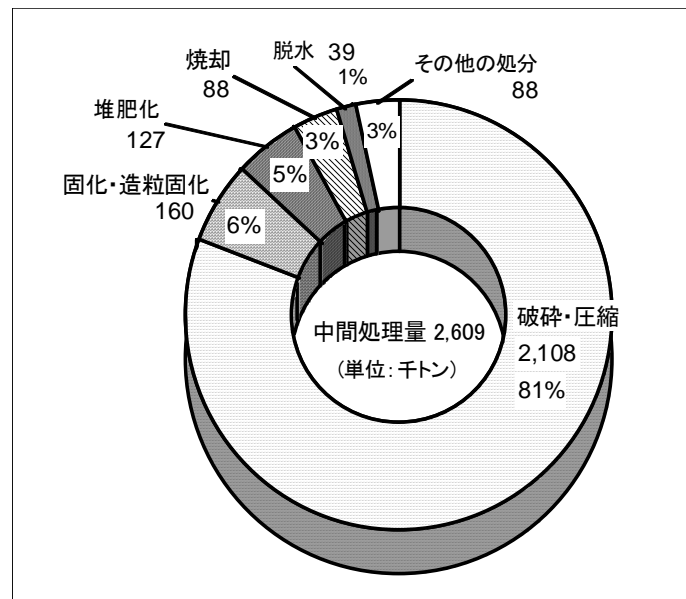
平成20年度の産業廃棄物処理業者の処分量は2,948千トンである。この内、中間処理量が2,609千トン、最終処分量が339千トンとなっている。平成19年度と比較すると中間処理量が327千トン増加し、最終処分量が18千トン増加している。



▲図 3-1-1 処分量の推移

2. 処分方法別の中間処理量

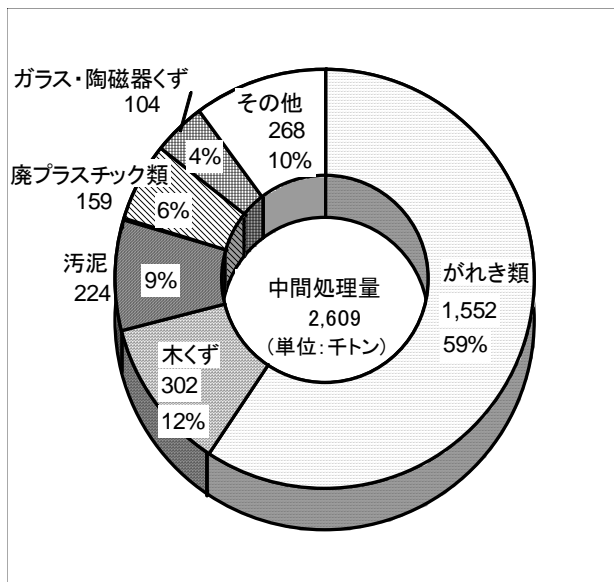
産業廃棄物処理業者の中間処理量を処分方法別にみると、「破碎・圧縮」が2,108千トン（81%）で最も多く、次いで、「固化・増粒固化」が160千トン（6%）、以下、「堆肥化」が127千トン（5%）等となっている。



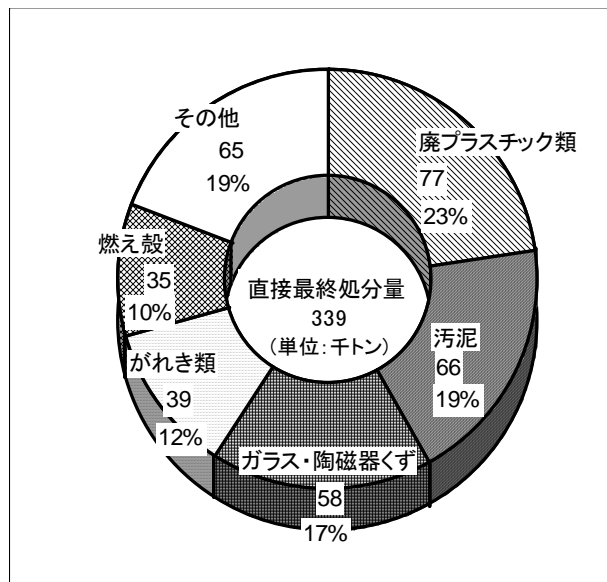
▲図 3-1-2 処分方法別の処分量

3. 廃棄物種類別の処分量

処分量を種類別にみると、中間処理量では、がれき類が 1,552 千トン（59%）で最も多く、次いで、木くず 302 千トン（12%）汚泥が 224 千トン（9%）、等となっている。最終処分量では、廃プラスチック類が 77 千トン（23%）で最も多く、次いで、汚泥が 66 千トン（19%）、ガラス・陶磁器くずが 58 千トン（17%）等となっている。



▲図 3-1-3 種類別の中間処理量

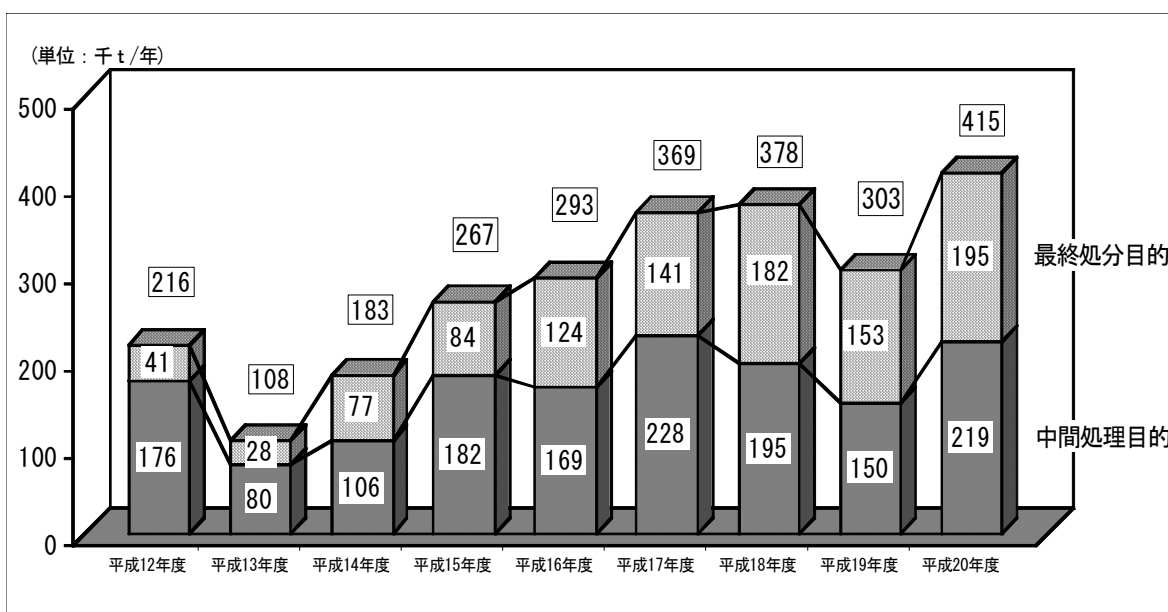


▲図 3-1-4 種類別の最終処分量

第 2 節 県外から県内への搬入量

1. 県内搬入量の推移

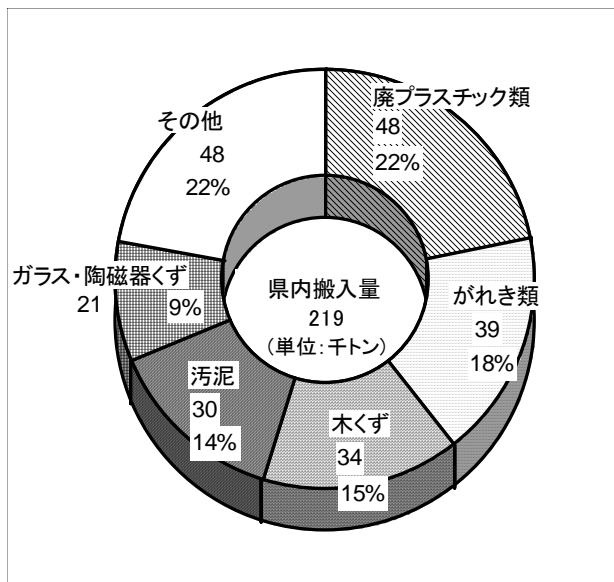
平成 20 年度の県内搬入量は、415 千トンである。この内、中間処理目的が 219 千トン、最終処分目的が 195 千トンとなっている。平成 19 年度と比較すると中間処理量が 69 千トン増加し、最終処分量が 42 千トン増加している。



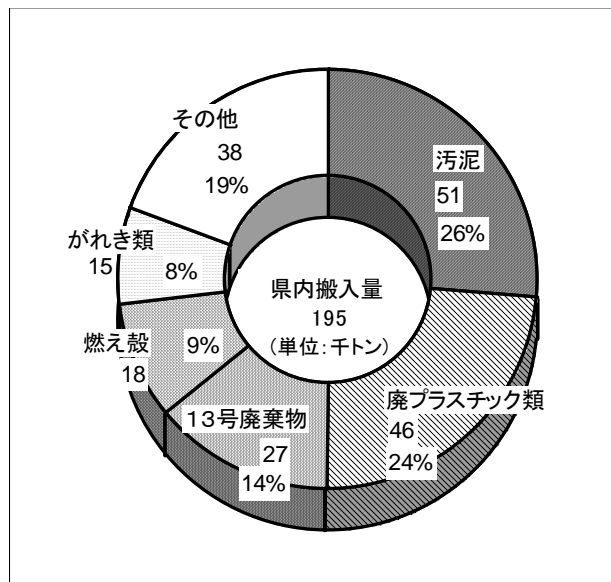
▲図 3-2-1 県内搬入量の推移

2. 種類別の県内搬入量

県内搬入量を種類別にみると、中間処理目的では、廃プラスチック類が48千トン（22%）で最も多く、次いで、がれき類39千トン（18%）、木くずが34千トン（15%）等となっている。最終処分目的では、汚泥が51千トン（26%）で最も多く、次いで、廃プラスチック類46千トン（24%）、13号廃棄物が27千トン（14%）等となっている。



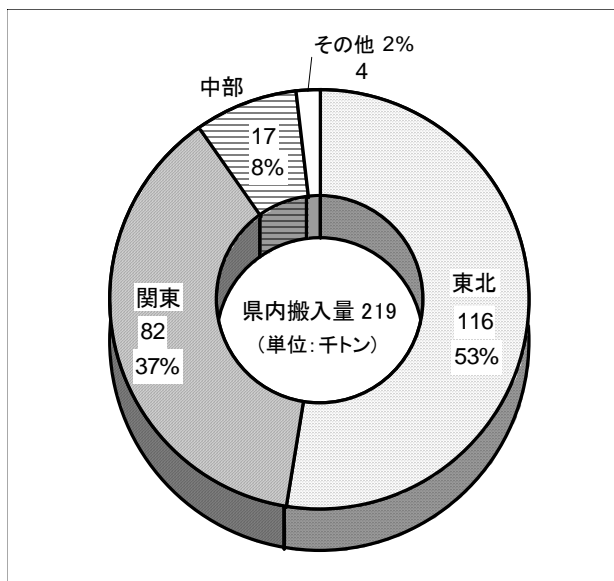
▲図3-2-2 種類別の県内搬入量 (中間処理目的)



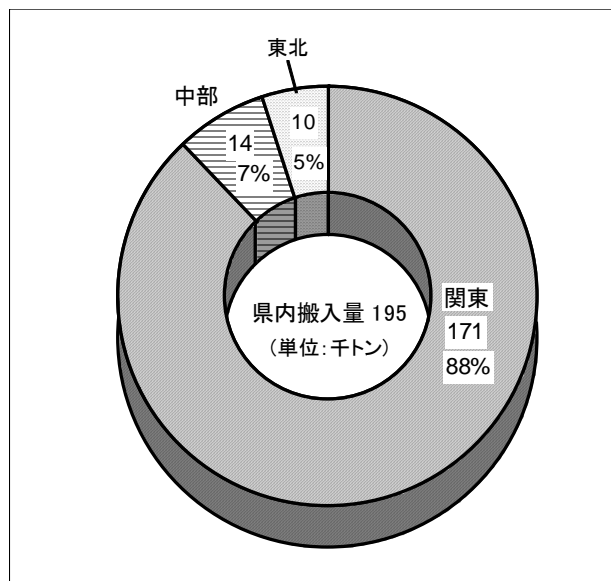
▲図3-2-3 種類別の県内搬入量 (最終処分目的)

3. 搬出地域別の県内搬入量

中間処理目的の県内搬入量を地域別にみると、東北が116千トン（53%）で最も多く、次いで、関東が82千トン（37%）等となっている。最終処分目的の県内搬入量を地域別にみると関東が171千トン（88%）、次いで、中部が14千トン（7%）等となっている。



▲図3-2-4 地域別の県内搬入量 (中間処理目的)



▲図3-2-5 地域別の県内搬入量 (最終処分目的)